

## 8. 親が作る子供の欠点

### まずわが身を正そう

「畑の苗は、肥えた土の中で日光と水とに恵まれさえすれば、放っておいても立派に育つ。しかし良い手入れをするなら、なお一層立派になるだろう」と私は申しました。それを教育の上に当てはめて考えてみたいと思います。

肥えた土、日光、水……これらは、子供の環境が、教育的に十分に整備されていることに当ると思います。ただ、前者はその条件を自分の努力だけで良くすることは、ほとんど不可能に近いものがありますが、後者は努力によってかなり良くすることが出来る、という違いがあります。

しかし、畑には、日当りの良い肥えたものがあり、反対に山かげの痩せた畑もあるように、親の教育的配慮とは無関係に、その子供の環境が十分に整備されている場合もあれば、親の努力にもかかわらず子供の環境が思うように良くならない場合もあります。

だから、親が教育に熱心なのにもかかわらずその子供がなかなか

良くならないことがある反面、親が教育に無関心なのに子供が良くなることもあるわけです。しかしそれは、それぞれにそうなるべき理由があるからであり、放っておいたほうが良いということにはもちろんなりません。痩せた土には肥料をやり、水に乏しければ汲んで来てやるように、子供の環境が悪ければ、これを少しでも良くしようとする努力が必要です。

しかし、最も必要なのは“雑草を抜き取る”という仕事だと思えます。それは、わが子にとって為にならないものを遠ざける、ということに当るでしょう。

悪い遊びや悪い生活態度を禁じ、悪い漫画や悪い玩具を遠ざける、ということはもちろん必要ですが、それよりも私は、親の悪いマナーを子供に見せないように努力する配慮が、何よりも大切だと思うのです。

子供というものは、話し方、笑い方から、咳の仕方一つに至るまで、実によく親に似るものです。それは、遺伝ということもあるでしょうが、それ以上に、毎日毎日親の言動を見聞きしているから、それを自然とまねするのだ、と私は思います。

「子供は模倣の本能がある」と言われていて、事実、子供は身近な人の言動を常に手本に、それをまねせずにはいられないものがあるように思われます。だから、親が、毎日“せっかち”の手本を見せていますと、子供も必ず“せっかち”になります。

つまり、子供の欠点は親が作ったようなものです。ところがたいいていの親はこのことに気が付きません。子供の欠点をとがめ、これを改めるように子供に求めますが、親自身が欠点を改めない限り直りません。だから、親は自分の言動について、常に反省をして、わが子にまねられたくないような自分の欠点は、これを子供の前では絶対に見せないように努力する心構えが、ぜひとも必要だと私は思うのです。

コラム

**部首** 戈

いくさ道具の“ほこ”を象った象形字。武器の総称、“戦争”。

【武】 戈と止との会意字。“戦争を防止するもの”で、つまり武とは相手を倒すためのものではなく、相手の侵略を未然に防ぐためのもの。

コラム

**部首** 豕

いのししやぶたの形を象った象形字。

【家】 家の意味の宀と豕との会意字。豚は早くから家畜として多くの家で飼育されていた。